

やんばる東村アドベンチャーラリー2026

■ チャレンジクラス優勝チーム コメント



『Ainary RED』

宮里正克さん

まずは、この素晴らしい大会を企画・運営してくださっている皆様、そしてサポートしてくださっている皆様に心より感謝申し上げます。

また、同じフィールドで自然を楽しみ、共に挑戦している参加者の皆様の存在があつてこそ、この大会の価値が成り立っていると感じています。本当にありがとうございます。

私は東村アドベンチャーラリーの第1回大会から、コロナ禍による延期を除き、すべての大会に参加してきました。

私たちチーム Ainary（アイナリー）は「楽しいことはみんなでシェアするともっと楽しい」という想いのもと活動しています。

アドベンチャーラリーとの出会いは2011年の東日本大震災のボランティア活動がきっかけでした。その中で、自給自足で行動する力や、支え合うことの大切さを実感し、それまで取り組んでいたトライアスロンとは違う形で、自分自身を磨ける競技としてこの世界に飛び込みました。

当時は“アドベンチャーラリー”という言葉すら知らない状態でしたが、第1回大会に挑戦し、その魅力に一気に引き込まれました。

沖縄に生まれ育ちながらも気づかなかった、やんばるの山の奥深さ、海的美しさ、自転車で駆け抜ける爽快感。

そして何より、チームで支え合いながらゴールを目指すこの競技の奥深さに魅了されてきました。

競技の中では、チーム内での意見の違い、判断の難しさ、体力的な限界など、簡単ではない場面が数多くあります。それでも一つひとつのポイントをクリアしていく達成感や、仲間と乗り

越える喜びは、何ものにも代えがたいものです。

少し大げさかもしれませんが、「生きている実感」を強く感じられる競技だと思っています。

やんばるが世界自然遺産となり、自然との関わり方も変化してきていますが、このアドベンチャーラリーのような形で自然に触れ、体と知恵を使って挑戦する経験は、次世代の子どもたちにとっても非常に大切なものだと感じています。

この大会を通して、自然の大切さや素晴らしさが広がっていくことを願っています。

今回、私たちは優勝という結果をいただきましたが、レース中にすれ違う選手同士の声掛けや励ましの言葉に何度も力をもらいました。この結果は、そうした皆さんの存在があったからこそだと感じています。

今後も東村アドベンチャーラリーが継続し、この素晴らしい自然と魅力が多くの方に伝わっていくことを願っています。

私たち Ainary としても、選手としてだけでなく、さまざまな形でこの大会に関わっていけたらと思っています。

本当にありがとうございました。

